

学校教育目標	自らかがやき 友とかがやき かがやく未来を創る六つ川の子 ・基礎・基本を身に付けると共に、主体的に考え学ぶ力を育てます。(知) ・人との関わりを大切にしながら、自己有用感を高め、思いやりの心を育てます。(徳) ・運動習慣と規則正しい生活習慣を見につけ、心身共にたくましく生きる力を育てます。(体) ・地域とのかかわりを大切にしながら、集団の一員として全体を考える力と協働する力を育てます。(公) ・様々なことにチャレンジし、最後までやり遂げようとする態度を育てます。(開)				
	創立 60 周年 児童生徒数: 329 人	学校長 鐘江 ミサ 主な関係校: 六つ川台小学校・六つ川西小学校・六つ川中学校	副校長 安齋 登美子	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 5

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 「自分をつくる力」 「友達や社会とつながる力」 「やり遂げる力」	六つ川中 ブロック 六つ川中学校 六つ川小学校 六つ川台小学校 六つ川西小学校	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 「自立のための基礎力」の育成 9年間で「自立する力」「協働する力」を身に付けた子どもの育成をめざし、具体の姿を設定し各校で取り組む。部会としての取組は以下とする。 学習指導部会→授業研究会を開催し、9年間の学びへの理解を深める。 領域指導部→9年間で一貫した社会情動的コンピテンシーの育成を進める。地域との交流授業等と授業の中のICT活用の情報共有を進める。 児童指導部会→ブロック内小中交流を進め、児童生徒の考えをいかした「あせかけ運動」を推進する。
--	--	---

中期取組目標 子どもたちが安心して、主体的に学び、自分の成長を実感できる学校にします。 ・子どもたちがお互いのよさに気づき仲間と認め合い、高め合おうとする前向きな学校風土を作ります。 ・子どもたち一人ひとりの実態や思いを大切に授業創りに取り組み、子どもたちが主体的に学習に取り組めるようにします。 ・子どもたちの想いや願いを尊重した学年・学級目標を設定し、自分や集団の成長を確かめることができるようにします。 ・多くの学習活動や行事を通して、子どもたち自身が地域の中の一員としての自分を意識し感謝の気持ちをもてるようにします。
--

重点取組分野	具体的取組
知 学力向上 担当 学習指導	①学習ルールを確立し落ち着いた学習環境を保障し、ICT端末を効果的に活用した基礎基本の定着を図る。 ②学力学習状況調査のデータを活用し、どの教科においても資質・能力を身に付けられる授業創りに取り組む。 ③個別最適な学びと協働的な学びについての理解を深め、主体的・対話的深い学びの実現に努める。
徳 豊かな心 担当 人権・道徳・特活	①道徳教育の充実を図り、規範意識を高めると共に、自分の思いを安心して表現できる学級作りを行う。 ②異学年交流や地域の方とのかかわりを通じて、自分も相手も大事にしようとする心情を育む。 ③YPアセスメントを活用し、学級活動(話し合い・係・集会等)の充実を図り、温かな人間関係作りにつなげる。
体 健やかな体 担当 体育・食育・保健	①体力テストの結果を活用し、取り組むべき重点的な運動や遊びを教師間で共有すると共に、児童一人ひとりが「できた、わかった」という喜びを味わい、主体的に運動したり、体を動かすことの楽しさや気持ちよさを実感したりできるようにする。 ②健康な体についての正しい知識を身に付け、子どもたち自身が、安全で気持ちの良い生活ができるようにする。 ③給食指導や栽培活動等、食育を様々な場面で推進し、食生活の大切さについて気づかせる。
公 自分づくり教育 担当 特活部・総合	①学校教育目標を意識し、児童が自分の頑張りを自覚し自身の可能性を見出すことができるような学習活動を計画実践する。 ②自分たちの学校生活、行事等で自分作りパスポートを活用し、自分の成長を振り返り、仲間や保護者と共有できるようにする。 ③生活科や総合的な学習の時間を活用し、児童の思いや、気づきを大切にして地域の方々とかかわることで、感謝の気持ちをもったり、自分の生き方について考えたりする機会を作る。
いじめへの対応 担当 児童指導部	①温かな学級風土作りを進めつつ、いじめを積極的に認知し、スタナビの活用等で全職員で情報を共有し未然防止に努める。 ②風通しのよい学校創りに取り組み、SC,SSWとの積極的な連携で、組織的に事案対応を行う。 ③教職員自身が人権感覚を磨き、「あなたは、あなたでよい」のまなざしをそえ、子どもたち一人ひとりの実態や気持ちに寄り添った対応を進める。
特別支援教育 担当 特別支援部	①研修や情報交換を密に行い、教職員が特別支援教育のスキルと感度を高め、すべての子が居心地のよい学校を目指す。 ②一人ひとりの児童の困り感に寄り添い、特別支援コーディネーターを中心とした支援体制を全職員で共有し職員の専門性を高める。 ③特別支援教室(自然教室・取り出し指導)の持続可能な運営を行う。 ④センター機能等を活用したコンサルテーションの定期的な実施と情報共有で、児童理解を深める。
児童指導 担当 児童指導部	①MBCあせかけ運動における「あいさつ」運動を児童の思いや考えをいかして継続し、中学校ブロックの連携を進める。 ②ブロックでの情報共有を密に行い、全児童を多くの職員で見守りながら、YP等を活用し子どもたち一人ひとりの状況に応じた適切な指導を行う。 ③子どもたち一人ひとりを生かした学習や活動を積み重ねることで、子どもたちが安心して過ごせる学級風土創りに努める。
学校地域連携 担当 教務部	①積極的に情報発信に努め、保護者地域の学校理解を進め、連携を深める。 ②地域の良さを考える単元や60周年を生かした活動をカリキュラムに位置づけ地域の一員であることに気付けるようにする。 ③6年間を見通した計画的な連携により地域への愛着や感謝の気持ちを育てる。
安全管理 担当 保健安全部・情報部	①日常生活の中での安全意識を高める。(交通安全教室・防災訓練・歩行の仕方・体調管理・環境整備等) ②情報モラルを守り、ICT機器を効果的に活用できるようにする。 ③教科等と関連させた防災教育の充実(社会科・総合的な学習の時間等)を図る。
人材育成・組織運営(働き方) 担当 教務部	①新たな組織の円滑な運営に努めると共に、組織の中での人材育成を図る。 ②職員の健康管理のために、見通しをもった業務への取組で、時間外労働時間の削減に努める。 ③経験や個性を生かす研修に参加し、自分ごととして学校全体で共有する。